

育ちと学びをつなぐ

守口市接続期カリキュラム



平成 31 年 3 月

守口市

巻頭言

本市を真に活力と希望のあるまちにするためには、子育て世代にスポットをあてた政策をすすめ、子どもの頃から本市に住み、そして、定住を促進することが極めて重要です。

現在の我が国は、少子高齢化により、これまでの日本社会の枠組みが成り立たない「国難」ともいうべき危機に直面しています。そのような中で、本市では平成 29 年 4 月から「将来のまちと市民のため」に 0 歳児からの「幼児教育・保育の無償化」施策を実施いたしました。

一方、子育てをめぐる社会情勢に目を移すと、昨今の核家族化や、地域の住民同士の関係が希薄化しつつある中で、子ども達を取り巻く環境が大きく変化し、親を含めた若年層のコミュニケーション能力の低下など、子どもの育ちに多大な影響を及ぼしている実状は否めません。こうした中、認定こども園等から小学校への生活環境の変化に適応できない子どもが増えていることも見過ごすことができません。

そこで、この度本市では、幼児教育・保育の無償化による子育て支援と並行し、このような子ども達が円滑に小学校の生活や学習に適応できるような取組みを進めるために、「守口市接続期カリキュラム」を作成いたしました。

今回、作成しました「守口市接続期カリキュラム」は、子ども達が認定こども園等での幼児教育・保育を終えた後、円滑に小学校での環境に適応できることを念頭に、本市の幼児教育、また小学校教育の現状と課題を踏まえ、認定こども園等と小学校において、それぞれが子ども達の健やかな成長を保障する上で大切にすべき視点や内容、取組みについて示したものです。今後、多くの関係者の方にご活用・実践いただき、本市の子育て環境の一層の充実が図られることを願ってやみません。

最後に、「守口市接続期カリキュラム」の作成にあたり、多大なるご協力、ご意見を賜りました、私立認定こども園会、私立認定こども園協会等の皆さまに対し、心から感謝の意を表します。守口市として、教育委員会とも連携し、子ども達の豊かな育ちをはぐくむべく力を注いで参ります。今後とも皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 31 年 3 月

守口市長 西端 勝樹

目 次

巻頭言

- 1 接続期カリキュラム作成にあたって
 - (1) 教育及び保育の接続の重要性
 - (2) 守口市の教育の方向性
 - (3) 子どもたちに育成したい3つの柱

- 2 子どもの育ちと学びの連続性
 - (1) 乳児期からの発達特性と大人の関わり
 - (2) 幼児期の学び
 - (3) 幼児教育のねらい及び内容
 - (4) 幼児教育と小学校教育の接続
 - (5) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）
 - (参考資料 1) 育てたい資質・能力
 - (参考資料 2) 幼児教育と小学校教育のつながり

- 3 接続期カリキュラムについて
 - (1) 守口市としてのとらえ方
 - (2) アプローチカリキュラム
 - (3) スタートカリキュラム

- 4 守口市接続期カリキュラム（2019年度版）

終わりに

1 接続期カリキュラム作成にあたって

（１）教育及び保育の接続の重要性

平成 29 年 3 月に幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針、小学校学習指導要領（以下、要領等）が改訂（改定）され、時代の変化に対応した教育及び保育のあり方が示されました。

今回の改訂（改定）では、幼児期から高等学校卒業まで、一貫して育てたい資質・能力が「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の 3 つに整理されました。就学前施設における教育及び保育においては、この 3 つの資質・能力を育む中で浮かび上がってくる年長児後半の子どもの姿として、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10 の姿）」が示されました。

また、「小学校学習指導要領 第 1 章 総則 第 2 教育課程の編成」においては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。（略）特に小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。」と示されています。これは乳幼児期の育ちを小学校以降でどう育てていくのか、という視点で教育課程を編成し教育活動を行うことが求められているということであり、幼児教育と小学校教育の円滑な接続が重要とされています。

（２）守口市の教育の方向性

守口市では、平成 28 年に「守口市教育大綱」を策定し、市長部局と教育委員会が連携・協力して推進していく教育のあり方について示しました。学校・家庭・地域が一体となって、子どもの豊かな育ちを支える教育コミュニティの形成・充実を図りつつ、今後に変容し続ける社会の中で、子どもの発達段階に応じた「生きる力」を育むために、学校教育・社会教育に関する施策を総合的に推進していくとしています。

守口市の教育理念

郷土を誇りに思い、夢と志をもって、国際化社会で主体的に行動する人の育成

（３）子どもたちに育成したい３つの柱

守口市内の就学前施設では、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針に沿って、年齢に応じたねらいを持って日々の教育及び保育を行っています。

市立認定こども園では、「子どもが現在を最も良く生き、生涯にわたる人間形成の基礎を培う」「生活やあそびなどの具体的な活動を通して生きる力の基礎を養う」という教育・保育目標のもと、年齢別のねらいが示されており、５歳児においては、「基本的生活習慣が身につく見通しを持って行動する」「友だちと一緒に活動する中で共通の目的をもち協力して物事をやり遂げ達成感を味わう」「身近な事物を見たり考えたり扱ったりする中で物の性質や数量、文字などに関心をもつ」の３点が示されており、「生活する力」「人と関わる力」「学びに向かう力」を重点項目として教育及び保育が行われています。

また、市立小学校及び市立義務教育学校においては、「守口市教育大綱」に示された教育理念に基づき、学校教育目標を立て、めざす子ども像を示しています。

そこでは、主として、健康や安全に努める・命を大切にする・元気に明るいなど、「よりよく生活する力」に関連すること、みんなで取り組む・思いやり・助け合う・支え合う・認め合うなど、「主体的に人と関わる力」に関連すること、学び続ける・ねばり強い・自ら学ぶなど、「自ら学びに向かう力」に関連することの大きく３つの力の育成が挙げられています。

そこで、「生活する力」「かかわる力」「学びに向かう力」の３つを柱として、幼児教育から小学校教育への接続を図ることにより、これまで守口市が大切にしてきた教育及び保育を踏まえた上でのカリキュラムを作成することができると考え、今回の接続期カリキュラムの作成を進めることとしました。

(1) 乳児期からの発達特性と大人の関わり

子どもは生まれてから段階を追って発達していきます。そして、生活や遊びの様々な場面で、主体的に周囲の人に興味を持ち、直接関わっていかうとします。このような姿は「学びの芽生え」と言えるもので、学びの出発点となり、生きる力の基礎となります。

「1 接続期カリキュラム作成にあたって」において示したように、乳幼児期の育ちを小学校以降でどう育てていくのかという視点で教育課程を編成し教育活動を行うことが求められており、乳児期からの発達特性を知り、適切に関わるのが重要なことです。

● 0歳から1歳頃

特 性…視覚、聴覚などの感覚や、座る、はう、歩くなどの運動機能が著しく発達し、特定の大人との応答的な関わりを通じて、情緒的な絆が形成される。

関わり…愛情豊かに、応答的に関わるのが大切である。

● 1歳頃から3歳頃

特 性…歩き始めから、歩く、走る、跳ぶなどへと、基本的な運動機能が次第に発達し、排泄の自立のための身体的機能も整う。

つまむ、めくるなどの指先の機能も発達し、食事、衣服の着脱等も保育教諭の援助のもとで自分で行うようになる。

発声も明瞭になり、語彙も増加し、自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになる。

関わり…自分でしようとする気持ちを尊重し、温かく見守るとともに、愛情豊かに、応答的に関わるのが大切である。

● 3歳以上

特 性…運動機能の発達により、基本的な動作が一通りできるようになるとともに、基本的な生活習慣もほぼ自立できるようになる。

理解する語彙数が急激に増加し、知的興味や関心も高まってくる。

仲間と遊び、仲間の中の一人という自覚が生じ、集団的な遊びや協同的な活動も見られるようになる。

関わり…個の成長と集団としての活動の充実が図られるよう、関わるのが大切である。

0歳から3歳頃にかけての子どもは、身近な大人の愛情豊かな対応の中で、生活するための力や人との関わる力を伸ばしていきます。3歳以上になると、身近な大人だけでなく、仲間との関わりの中で知的興味といった学ぶ力も含め、さらなる発達を見せるようになります。

1で示した3つの力を柱とすることによって、小学校以降においても、乳幼児期の育ちを踏まえた教育課程を編成し、子どもたちの成長を支えていきたいと考えています。

（2）幼児期の学び

幼児期の学びは、生涯にわたる人格形成の基盤を養う重要な役割を担っています。

幼児教育は、環境を通して行う教育です。幼児期の子どもは、生活の中で出会う様々な環境との直接的・具体的な関わりを通してこの時期にふさわしい生活が展開できるような力を培います。

運動能力、言語能力、思考力、他者と関わる力、感情をコントロールする力、感性や表現力など人間として生きていくための基盤となる力です。

こうした力は、生活と切り離された環境の中で、一方的に教えられて身につくものではありません。この時期にふさわしい生活を営む中で、自ら周囲の人やもの、自然などに関わって遊び、総合的に育まれていきます。

①環境を通しての学び

子どもが環境との関わりを深め、学びを可能にするものが保育者との関わりです。子ども主体の遊びを大切に、やってみたいと思えるようにするとともに、試行錯誤を認め、時間をかけて取り組めるようにすることが大切です。

環境に自ら関わり、遊びに没頭できる環境を構成し、子どもが主体性を十分に発揮できるようにすることで、生涯にわたる生きる力の基礎を培うことができます。

②遊びを通した総合的な学び

幼児期の生活の大部分は遊びによって占められています。遊びは学びと言われるように、遊びには子どもの成長や発達にとって非常に重要な要素が多く含まれています。

遊びの中で、周囲のものや人といった環境に主体的に関わり、より楽しい関わり方を発見したり、新しい関わり方を創造したりします。その過程で、工夫したり試行錯誤したりして考えを巡らせ、思考力の基礎を育んでいきます。また、想像力を働かせて新しい遊びを創り出すことは、感性や表現力を高めることにつながります。さらに、体を十分に使うことで、運動能力を高め、友だちと一緒に活動することで伝え合う力を高めたり、協力して何かを成し遂げる喜びを獲得したりします。

一方で、思うようにならない経験から挫折感を味わったり、友だちと意見が合わずにケンカをしたり、葛藤したりする場面もでてきます。そのような場面では、大人が間に入ることで、相手と折り合いをつける力や感情をコントロールする力などを徐々に身に付けていきます。こうした経験を重ねることで、相手の立場に立った考え方ができるようになり、社会性や道徳性を高めることができるのです。

このように子どもは、遊びの中で、生きるために必要な資質能力を総合的に身に付けていきます。

③一人ひとりの発達の特性に応じた関わり方

乳幼児期の子どもの心や体は、互いに関連し合うことにより、多様な経過をたどって発達していきます。その道筋や順序性には大きく見ると共通のものもありますが、細かく見ると一人ひとりの子どもの発達は様々です。また、入園するまでの家庭環境や生活環境も違ってきます。そのため、一人ひとりの発達の特性に応じた関わり方が大切にされます。

保育者は、一人ひとりの発達の特性を理解し、個別の対応や集団での活動など、計画的に環境を構成し、カリキュラムを作成することによって、保育・教育活動を豊かにしていくことが求められます。

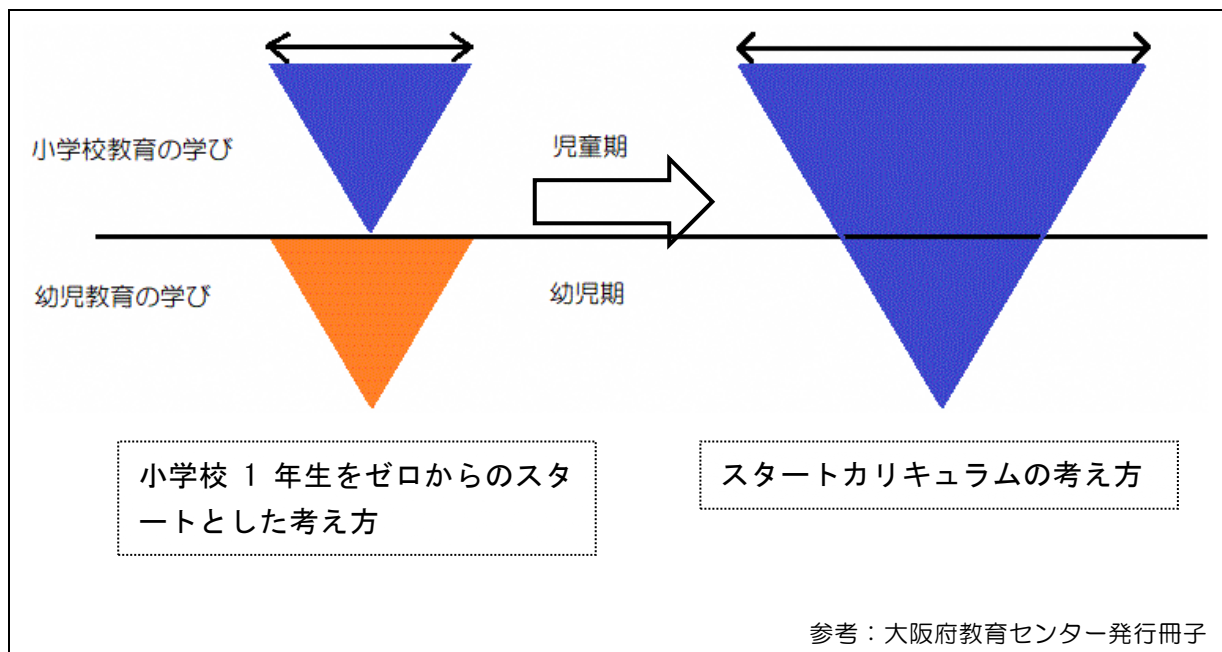
（３）幼児教育のねらい及び内容

幼児教育では子どもの発達を「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の５領域から捉え、遊びを通して５領域の内容を総合的に育んでいきます。５つの内容領域は、幼児教育において育みたい資質・能力（「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」）を幼児の生活する姿から捉えたものです。育みたい資質・能力と５領域のねらい及び内容等が組み合わさって「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（１０の姿）」となっていきます。

（４）幼児教育と小学校教育の接続

幼児期の教育と小学校教育の接続を考えると「小学校の学びは０からのスタートではない」という視点を持って、育ちと学びをつなぐことが大切です。

一人の子どもの成長と学びは、途切れることなくつながっています。幼児期の子どもは、遊びや生活の中で、感性を働かせて良さや美しさを感じ取ったり、不思議さに気づいたり、できるようになったことを使いながら、試したり、いろいろな方法を工夫したりすることを通して、総合的に学んでいきます。遊びの楽しさを体いっぱいを感じながら、試行錯誤し、仲間と協同し工夫する楽しさを見いだしています。



（５）幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（１０の姿）

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（１０の姿）」は５領域の中の「内容の取扱い」に書かれているもののうち、年長の時期に特に伸びていくところ、小学校以降の教科等の学びの芽生えとなるものを整理したものです。この姿をもとに、幼児期に身に付けた力を見とり、教科等の教育につないでいくことが大切です。

①健康な心と体

園（所）生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

②自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

③協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考え方などを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

④道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行

動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

⑤社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園（所）内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

⑥思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

⑦自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え、言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを関わるようになる。

⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

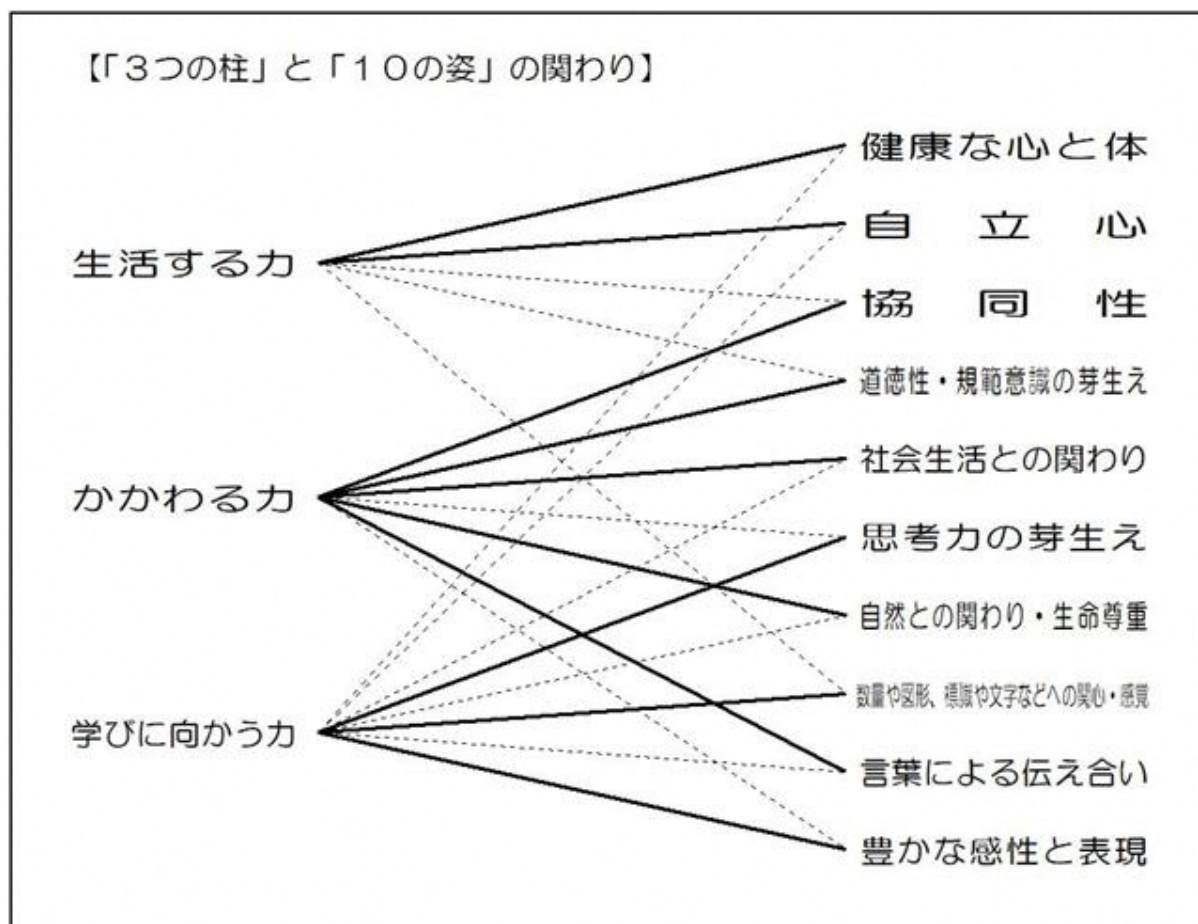
遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

⑨言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

⑩豊かな感性と表現

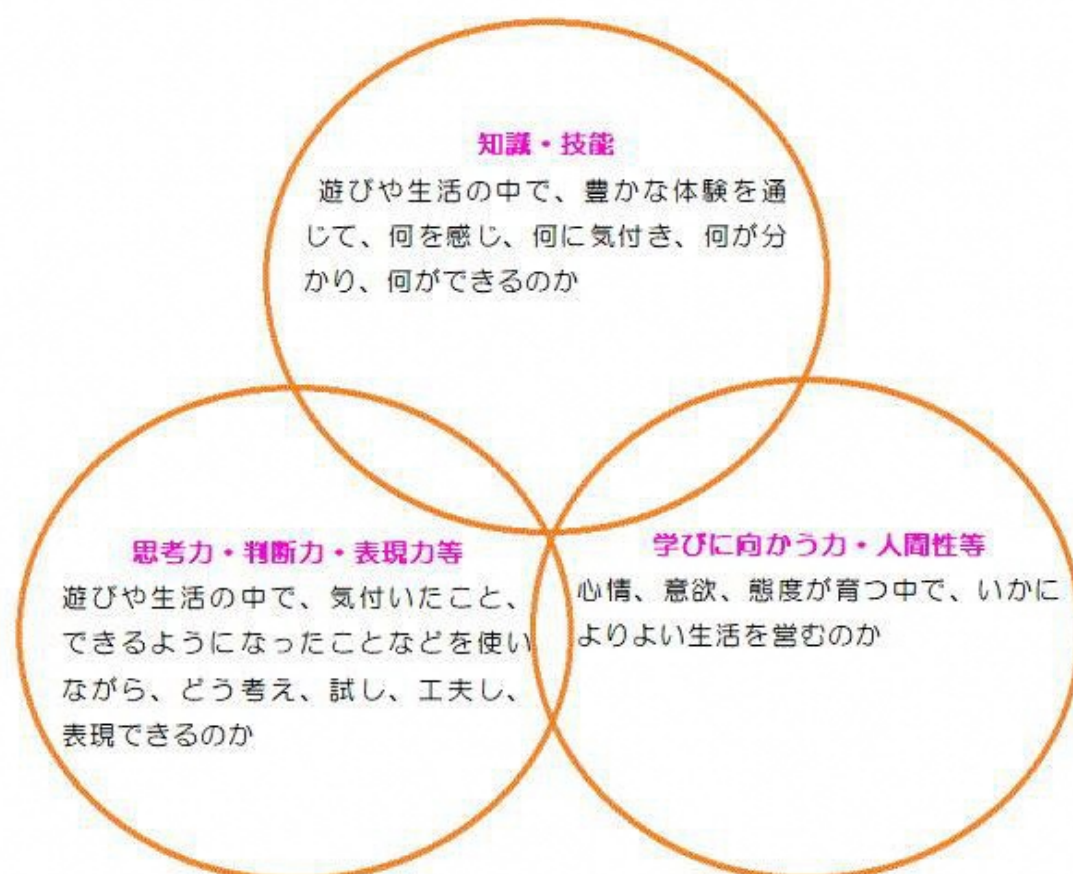
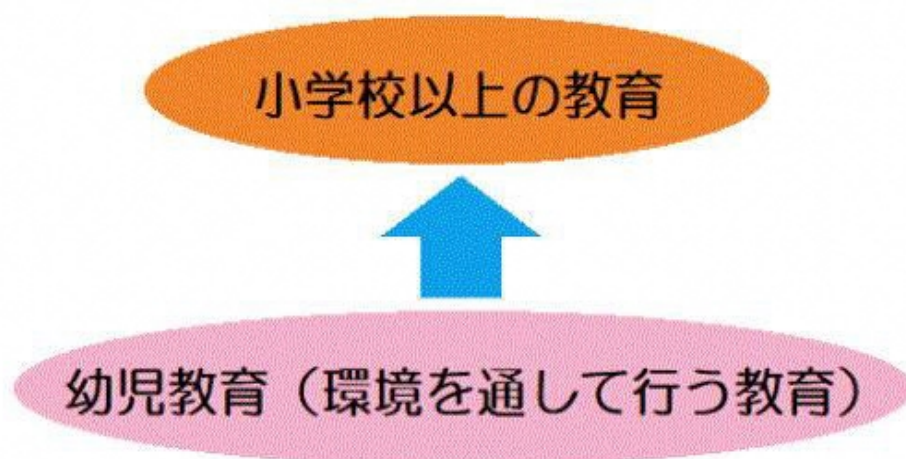
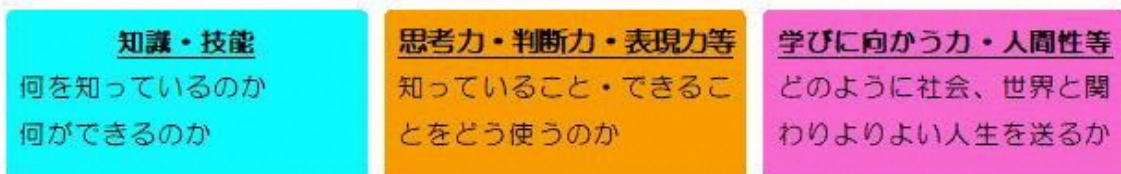
心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだり、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。



＊「3つの柱」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」は、全てが相互に関わり合っています。この図では、関わりのより強いものや強いものを実線及び点線でつないでいます。

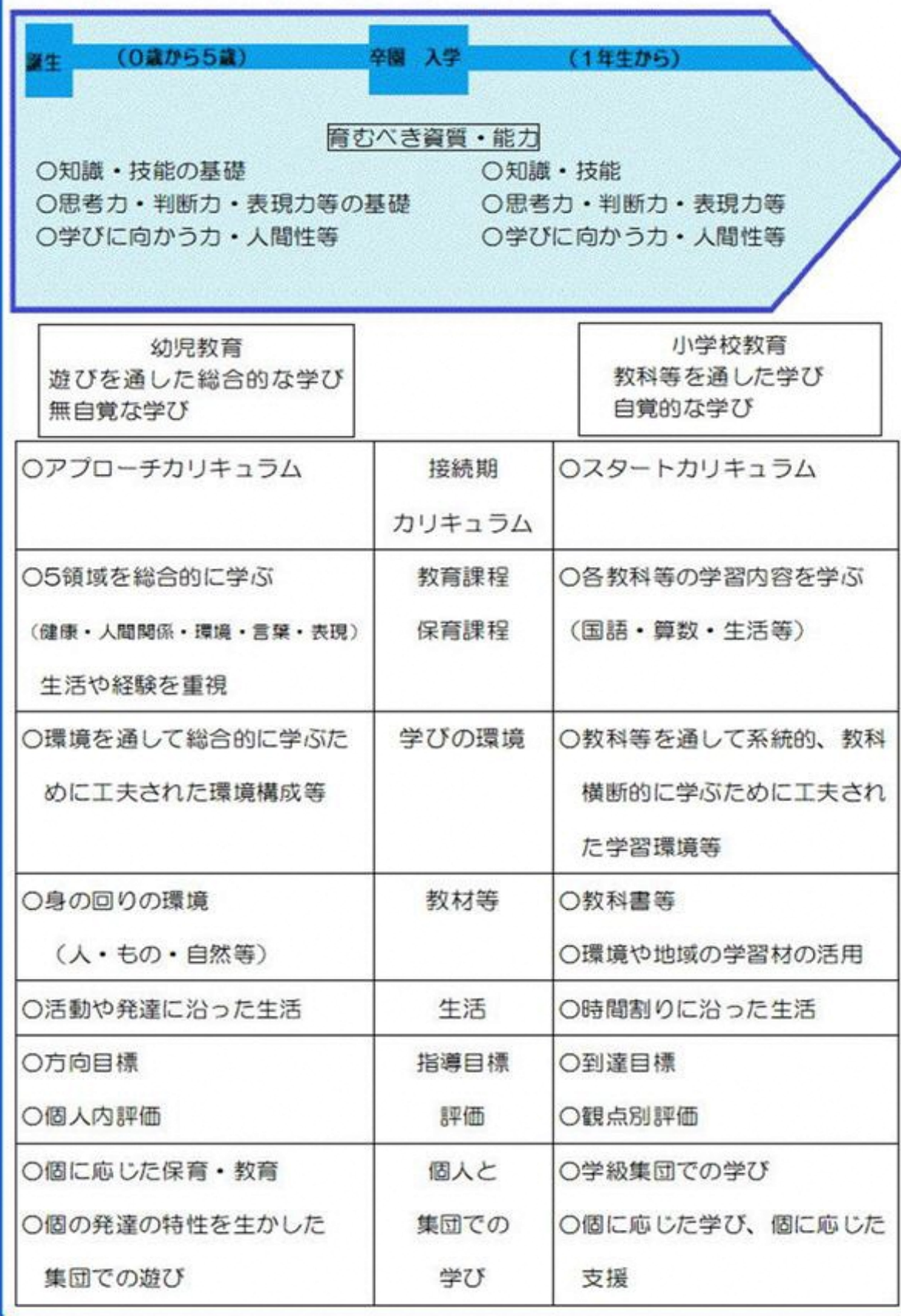
※「3つの柱」とは2ページ「(3) 子どもたちに育成したい3つの柱」を参照してください。

(参考資料1) 育てたい資質・能力



参考：中央教育審議会答申（平成28年12月21日）

(参考資料2) 幼児教育と小学校教育のつながり



参考：横浜版接続期カリキュラム

3 接続期カリキュラムについて

(1) 守口市としてのとらえ方

接続期カリキュラムは、幼児期の「遊びを通した総合的な学び」から小学校以降の「教科等を通した学び」へと円滑に接続できるように、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」等を手がかりとして、就学前施設では「アプローチカリキュラム」、小学校等では「スタートカリキュラム」として編成されるカリキュラムのことです。

守口市における本カリキュラムは、本市の幼児教育、小学校教育の現状と課題を踏まえ、就学前施設と小学校において、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）、3つの柱（※）を手がかりとして、それぞれが大切にすべき視点や内容、取組について示したものです。就学前施設や小学校等が日頃の教育・保育の実践で参考にするほか、指導計画・教育課程を編成する際の方針の一つとするためのものです。

5歳児		小学校1年生	
4月～8月	9月～3月	4月～7月	8月～3月
守口市としての接続期			

※守口市では、5歳児の9月頃から小学校1年生の夏休み前頃までを接続期間としています。

(2) アプローチカリキュラム

子どもたち自らが、今までに経験してきたことに自信を持つことで、自己肯定感を高め、今後の小学校生活に対して期待を持つことができるよう、「3つの柱」（※）や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を手がかりとして作成されるカリキュラムです。また、作成にあたり、幼児自らが環境に主体的に関わるように、保育者等による環境の設定も大切になります。

(3) スタートカリキュラム

小学校入学当初において、子どもたちの不安感や戸惑いを少しでも解消することができるよう、これまでに経験してきた遊びや生活環境を参考として、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を通した子どもたちの姿について共通認識を図り、「小学校の学びは0からのスタートではない」という視点を持って、これまでの育ちと学びをつなぐことを基本として作成されるカリキュラムです。

※「3つの柱」とは2ページ「(3) 子どもたちに育成したい3つの柱」を参照してください。

4 守口市接続期カリキュラム(2019年度版)

時期	5歳児 9～12月	5歳児 1～3月	幼児期の終わり までに育って ほしい10の姿	1年生 4月～7月
ねらい	・友達とのつながりを深め、互いに思いや考えを出しながら一緒に遊びを進めていく楽しさを味わう。 ・目的をもって活動に取り組み、自己を十分に発揮する。 ・友達と共通の目的をもって、遊びを創り上げ、やり遂げる喜びと充実感を味わう。 ・イメージを広げ、さまざまな方法で表現する楽しさを味わう。	・就学への期待と自覚を持ち、見通しをもって生活する。 ・グループの中や学級の中で、一人ひとりが十分に力を発揮し、互いに認め合いながら遊びや生活を進める。		・学習に対する好奇心や意欲をもち、学習を楽しむ。 ・自分の役割を理解し、友だちと協力して、さまざまな活動に取り組む。 ・小学校での生活に慣れ、自分で活動に取り組む。
生活する力	・食事のマナーを理解し、楽しく食べようとする中で、食物への興味をもつ。 ・室内と戸外の温度の違いを感じ、自分で衣服の調節をしようとする。 ・健康に過ごせるよう自分で水分補給をする等、意識して行動しようとする。 ・交通ルールを守り、安全に気をつけて行動する。 ・災害時の身の守り方が分かり、合図や指示に従って行動する。 ・生活に必要な行動を自分から進んで行う。 ・先を見通したり、時間を意識したりしながら、友達と声を掛け合って生活しようとする。 ・困ったこと(体の異常や怪我の状況など)を身近な大人に伝える。	・食事のマナーを守って時間内に食べようとするとともに、食の大切さを感じる。 ・体調や気温に応じて、自分で衣服の調節をする。 ・手洗いうがいを進んで行うなど、健康に過ごす意識を持って生活する。 ・危険な場所に気づき、自分で判断して、安全に行動しようとする。 ・災害時の行動の仕方が分かり、状況に応じて安全に行動する。 ・就学への期待をもち、自信をもって行動する。 ・時間を意識し、見通しをもちながら、遊んだり主体的に生活を進めようとする。	①健康な心と体 ②自立心	・食の大切さ、自分の健康・体力作り、身の回りの安全・安心について知る。 ・学んだ知識を生かし自分で判断して健康で安全・安心な生活をしようとする。 ・小学校生活の仕方を知り見通しをもって行動しようとする。
かかわる力	・思いや考えを言葉で伝えあい、折り合いをつけて遊びや活動を進めようとする。 ・友達と互いの良さを認め合う。 ・困ったときや要求があるときは、自分から先生や友達に話したり、解決しようとする。 ・自分の思いを相手に伝わりやすいように話す。 ・目的に向かって根気強く取り組み、工夫し協力する中で、やり遂げた達成感を味わう。 ・物事の良い悪いを自分で考えて行動しようとする。 ・共同・共有の物を大切に扱い、マナーや約束を守ろうとする。 ・自分の住む地域に興味関心をもち、親しみをを感じる。 ・自然に触れて生活し、美しさや不思議さ等に気づく。	・話す相手や場によって使う言葉や話し方が違うことに気づく。 ・友達と積極的に関わりながら、相手の気持ちを考えて行動しようとする。 ・共通の目的に向かって役割を分担したり、協力したりしながら遊びを作り上げていく中で、充実感を味わう。	③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり	・友だちとの関わりの中で、思いやりの心を身につける。 ・自分の役割を自覚し、周りと協力して行動することを通して、充実感と達成感を味わう。 ・様々な学習活動や交流活動に進んで取組もうとする。
学びに向かう力	・色々な遊びを通して想像力を豊かにする。 ・生活や遊びの中で文字や記号、数量や図形に興味・関心をもつ。 ・身近な自然現象に関心をもつ。 ・四季を通して自然に触れ、その美しさ、大きさ、不思議さに気づき、遊びに取り入れる。 ・身近な物や環境に興味をもち、試したり工夫したりすることで生活を豊かにする。 ・自分で考えて行動する。 ・やってみたいという意欲をもち、遊ぶ中で達成感や満足感を味わう。 ・見たり、感じたりしたことからイメージを膨らませて様々な表現を楽しむ。 ・絵本や物語などに親しみ、文字に触れたり想像したりする楽しさを味わう。 ・色々な活動や遊びの中でできまりを守る必要性が分かる。 ・身近な社会、地域に触れる中でそれぞれに応じたルールが分かる。	・言葉に興味を持ち、書いたり読んだりすることで、文字の必要性に気づく。 ・自分で考え、自信を持って行動する。 ・友達と共通の目的に向かって役割を分担したり、考えを出し合ったりして作り上げることで達成感を味わう。 ・文字やことばに興味をもち、生活やあそびに取り入れようとする。	⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現	・身の回りの文字や数字などに興味をもち、学びが生活につながっていることを知る。 ・知っていることや学んだことを使って、自分の考えを表現しようとする。 ・学ぶことの楽しさを知り、進んで学習しようとする。
環境構成 ○生活する力 □かかわる力 ☆学びに向かう力	☆遊びの中で体の様々な動きが体験できる活動が生まれるような環境を構成する。 □☆園外に散歩に行く機会を設けるなど、自然に十分に触れたりし、自然物への関心を高められるようにする。また、気づいたことを調べられるよう、図鑑や絵本を用意するなど気づいたことを調べられるようにする。 ○あそびや生活の中で自分で考えて行動できる環境作りをする。 ○一人ひとりの体調にあわせて休息の取り方に柔軟に対応できるようにする。 □経験したことを話したり、聞いたりする機会を多くもつ。 □友達と考えや思いを出し合える環境を整える。 □地域に対して興味・関心・親しみをもてる環境を構成する ☆言葉や表現をしっかりと受け止め応えていくことで、安心して自分の思いを表せるよう援助する。 ☆遊びを通して学び(数量・文字・数)の芽生えが培われることを踏まえ、興味・関心をもって関わったり、発見したり、試行錯誤したり、挑戦したりできるような豊かな環境を構成する。	○小学校生活に向けて場や時間に即した行動ができるように、一日の生活の流れを意識できるように配慮する。 □これまでに経験してきたことを振り返り、関わってきた人への感謝の気持ちを持ち、就学に向けて期待がもてるよう環境を整える。 □場や人に応じた態度を育めるよう援助する。 □地域の出来事や、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、友達と伝え合う機会をもつ。 ○生活や遊びの中で見通しがもてる視覚支援など取り入れる環境を整える。		○入学当初は、就学前施設の環境を参考にした教室環境作りを意識する。 ☆文字や数字、漢字などに興味がもてるよう、学級の状態に合わせた環境整備を行う。 ○片付け方を写真で掲示したり1日の流れを表示したりするなど視覚支援を効果的に用いる。 ○就学前施設での過ごし方を十分に理解し子どもへの指示の出し方や話し方を工夫する。 ○教職員一人ひとりが、子どもを取り巻く環境構成員の一員であることを自覚し、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるように努める。 □子ども同士が対話的に関わり合うことができる活動を学級に合わせて取り入れる。 □学習の中で学びの成果を伝え合ったり発表したりすることができるような環境を整える。

終わりに

未来を担う子どもたちにとって、幼児期における「遊び」を通じた体験や学習は、人格形成の基礎となるとともに、生涯の「学び」に向かう大事な土台となります。就学前児童施設において育まれた「子どもの育ち」のバトンを、小学校及び義務教育学校へスムーズに受け渡しができるよう、接続期カリキュラムを作成しました。

今後、本カリキュラムの目的や考え方の各校園所への普及に努め、活用を目指すとともに、活動実践の検討、積み重ねを続けることによって、さらなる充実を図りたいと考えています。

最後になりましたが、本カリキュラムの作成にあたり、ご指導くださいました大阪総合保育大学の瀧川光治教授並びに大阪教育大学の小崎恭弘准教授をはじめ、私立認定こども園会、私立認定こども園協会等、たくさんの方々にご協力いただきましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。

作成／守口市接続期カリキュラムワーキンググループ
大阪府教育センター 研究生 原なつみ 氏

監修／大阪総合保育大学 児童保育学部 教授 瀧川光治 氏
大阪教育大学 教育学部 准教授 小崎恭弘 氏

協力／守口市立認定こども園園長会
守口市私立認定こども園会
学校法人立私立認定こども園協会
守口市私立幼稚園協会
守口市立学校校長会
守口市立学校教頭会



育ちと学びをつなぐ 守口市接続期カリキュラム

守口市

平成 31 年 3 月 発行